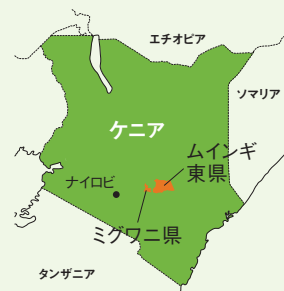


ケニアに健やかな 地域社会を築くリーダーを

HIV／エイズのまん延防止や妊産婦の健康改善。ミレニアム開発目標(MDGs)にも掲げられたこの2つをテーマに、NPO法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)がケニアで活動中だ。健康で豊かな社会を築くため、地域のリーダー養成に奮闘している。



アフリカ地域開発市民の会(CanDo)の活動の様子や団体の詳細はホームページでご覧になります。<http://www.cando.or.jp/>

村社会がエイズで 壊されるという危機感

NPO法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)は、1998年の設立以来、ケニアの首都ナイロビから約250キロ、ムインギ東県で学校建設や女性を対象にした保健教育、小学校での環境教育などを支援してきた。しかしここ数年、代表理事の永岡宏昌さんは、支援の現場で強く危機感を覚えることがあるという。

「HIV／エイズの問題は思った以上に深刻で、妊産婦の死亡例を現場で耳にすることも少なくありません。人々の持つ情報が混乱していたり偏っていたりして、HIV／エイズ感染予防や出産に関する危険な状況にきちんと対処できていないのです」

さらに永岡さんはこう続ける。

「HIV／エイズについて言えば、『死に至る恐ろしい病』、『不道德な行為の結

た支援を開始。舞台はムインギ東県の西に位置するミグワニ県。その活動資金に、JICA基金が活用されている。

大人たちが地域社会をリードする 社会の大切さ

CanDoの活動には、一貫して、ある特徴がある。

「基本的に、私たちの活動は、地域の大人たちを中心に展開しています。大人が学校の先生と一緒に子育て子どもたちを育て、行政と協力して地域をより良くしていく。そのような意識を持つてもらい、行動に移していくためのサポートこそが私たちの役割です」

ミグワニ県でのプロジェクトも、HIV／エイズや母性保護について、大人を



(上)村長老・オピニオンリーダーとの会議で発言をする永岡さん
(中)講師の話聞きながら、熱心にメモを取る参加者
(下)ケニア人の保健専門家とスタッフと、保健事業の方向性について協議する



住民を対象とした母性保護学習会。まずは“知る”ことが第一歩。青空の下、ケニア人講師の話に耳を傾ける

対象に学習会を開き、コミュニティに正しい知識を普及させるのが目的だ。とはいえ、最初はなかなか人が集まらないのが現状。永岡さんたちはこれまでの活動の中で、そうした「苦い経験」を何度もしてきた。

そこで今回は、地域のまとめ役である村長老、キリスト教教会の牧師やリーダー、元小学校校長、住民グループ代表など、地域のオピニオンリーダーにアプローチすることから始めた。まずは、コミュニティを率いる彼らに、エイズ対策や母性保護の大切さを理解してもらう。

その上で、住民を対象とする学習会への協力を取り付けた。そして、最低でも20人を集めることを目標に設定。彼らの協力もあって、計8回で365人もの住民が集う学習会となった。

また、学習会の進行にも工夫を凝らしている。一方的な講義形式ではなく、ロールプレーなどを通じて、このような場合、あなたならどう対処するかなど、常に参加者に問い掛けながら関心を引き寄せているのだ。「その場にいる人全員が、本当の意味で参加することが大切なのです」。

そして終了後は、必ずスタッフ間で分析会議を開く。女性がどんな質問をしたか、男性はどうか、年齢別の反応はどうだったか。そういう点から、地域の文化や習慣も分かってくるからだ。実際、立位出産や素手で作業する助産婦

果発症した罰といった脅しが住民の間で横行しています。なぜ発症するのか、予防のために何をしたらよいのか、HIV陽性者にはどう接すべきかなどの教育がほとんどなされていないのです」

出産に際しても、多くの問題を抱えている。ムインギ東県では、妊婦は立ったまま出産するのが伝統。助産婦は、妊婦の体液を浴びながら、生まれてくる赤ちゃんを素手で受ける。しかし、木の茂る道を素足で歩いて生活する彼らの体には生傷が絶えない。そう、出産の場合は、HIV感染のルートにもなっているのだ。


「HIV陽性者は相当の数です。しかし、誰が感染しているのか、見ただけでは分からない。村人たちは疑心暗鬼になり、うわさがうわさを呼んで、コミュニティが壊されていきます」

そうした危機感から、CanDoはエイズ教育と母性保護教育に焦点を当て

の話も、日本人スタッフにとっては学習会を通して初めて分かったことだった。会議の結果は情報シートにまとめられ、次回の学習会に生かされる。回を重ねるごとに、より地域のニーズに合ったプログラムが出来上がっていく仕組みだ。「参加者の熱意に触れた時が最もうれしい。地域のリーダーが育っていると実感する瞬間でもあります」

大人たちが中心になって地域の人々をHIV／エイズから守り、安心して子どもを育てられる健康な地域社会を築いていく。「そんな社会こそが、本当の意味で、豊かな社会といえるのではないだろうか」

ケニアで長年にわたり支援活動が続けてきた国際協力のパテラン、永岡さんはそう確信している。



あなたの小さな一歩から始まる国際協力
世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。
JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>